

## お客様に向けた取り組み

### グリーン調達の促進

日本化薬では調達活動においても環境負荷低減を積極的に進めています。2004年より使用してきた間接材の電子購買システムを更新し、2011年4月より「新電子購買システム」としての稼働を開始いたしました。これにより電子カタログにエコマーク対象商品やグリーン購入法対象商品等の表示ができるようになり、購入する間接材の中から対象商品のみ検索することも可能

となりました。この新電子購買システムの使用を促進し、より一層のグリーン調達比率の向上を図ります。

また、間接材のみならず原材料などのグリーン調達についても、実績集計や目標設定が可能となるよう検討を進めています。今後も取引先の協力を得てサプライチェーン全体の環境負荷低減に努めます。

### 効率の良い製品開発を目指して — セイフティシステムズ開発研究所

セイフティシステムズ開発研究所では、次世代インフレータ\*1の開発を行っています。研究所の役割は、他社にない技術を開発し、高品質で安全な製品を作り出すことですが、価格でもお客様に満足いただけるよう、製品開発に取り組んでいます。ここでは、インフレータを購入いただくモジュールメーカーはもちろん、自動車メーカーやエンドユーザーも大切なお客様です。



開発した製品が世の中に出るまでには社内各部署の協力が必要です。そこで、セイフティシステムズ事業本部では「SE (Simultaneous Engineering) 活動」を実施しています。SE活動とは、設計部門・設備部門・品管部門・製造部門・調達部門・管理部門が協力して、製品設計段階から工程設計・設備設計・品質設計などを同時進行で開発する手法です。これにより量産化までの問題点を開発初期の段階から製品に盛り込むことが可能となり、開発期間の短縮やロス削減が実現できます。

現在開発中の次世代インフレータにおいても「やり直しゼロ」を目指して開発を進めております。すべてのお客様に喜んでいただける製品となるよう「SE活動」を活用し画期的な製品を生み出します。

\*1 次世代インフレータ：2014年の上市を目標とした、「安価・軽量・グローバル供給可能な部品設計」をコンセプトとした運転席用・助手席用のインフレータ。

### 中国市場での染料染色技術セミナーを実施 — 上海化耀国際貿易有限公司

中国市場におけるお客様の染色技術の向上と当社製品の理解を深めていただくことを目的として、2~3年に一度、上海化耀国際貿易有限公司の主催で、染料染色技術セミナーを実施しています。江蘇省、浙江省、山東省、その他省の各地区のお取引先である染色工場の技術者にお集まりいただき、各地区約50名程度で計5~6箇所で開催しています。上海化耀国際貿易有限公司R&Dセンターのスタッフが発表者となって、これまでに省エネルギー、コストダウンなどのテーマで、当社の染料による短時間染色法および複合素材の合理的染色法の紹介、染色再現性の優れた染料シリーズなどの紹介を、約2時間程度で実施しています。各地区ともに参加者は熱心に聴講されていました。

セミナー終了後は技術的な問い合わせや染料サンプルの要請が相次ぎ、お取引先の染色工場での立ち会い試験のための出張要請も増え、セミナー実施による当社の知名度向上と拡販にも寄与しています。今後もお

取引先への技術支援を通じて、中国現地の染色業界への貢献を継続していきます。



◀ 中国での染色技術セミナー

## 従業員に向けた取り組み

### 5カ月半の育児休職制度を利用して

**私** たち家族は、育児支援者が近くにいない状態で第1子の出産を迎えました。子どもの世話を妻一人で行えるのかを心配していましたが、それが現実となり妻が産後体調を崩してしまいました。

そんなとき、会社の育児休職制度が変更となり父親にも育児休職が認められることになったことを知りました。しかし、職場の男性でこの制度を利用した人の話は聞いたこともなく、また「仕事は大丈夫なのだろうか?」「職場に迷惑がかからないか?」「復帰はできるのだろうか?」という不安もあり、育児休職を取得することに大変悩みました。そこで、会社・上司に相談したところ、「次世代育成プログラムの一環として、父親も育児休職制度が取得できるようになり、会社も支援しているので、遠慮せず取得してみてください」とアドバイスをいただき、2011年3月30日から育児休職を取得しました。

休職期間中は、オムツの交換、ミルク作り、沐浴、寝かしつけと一通り育児を経験し、一人で育児をすることはとても大変であることを実感しました。妻からは感謝

研究開発本部 医薬研究所  
化学グループ  
春日 洋祐



され、子育てについて話し合う時間を持つことができ、夫婦の絆がより深まった気がします。

約5カ月半の育児休職期間を経て職場に復帰、休職前と変わらず受け入れていただき、これがなにより嬉しいことでした。上司をはじめ職場の方々本当に感謝しています。

子どもの成長著しい時期を一緒に過ごし、その過程を夫婦で共有できたことは、大変貴重であったと思います。これから父親になる方にも制度の利用をお奨めしたいと思います。取得については理解が得られないことがまだまだあるように聞きます。制度面だけではなく、個人・職場・会社が連携して“父親も育児休職を取得できる環境作り”が大切だと実感しました。私も経験者として、その環境作りのお手伝いができたらと思っています。

## 社会に向けた取り組み

### 難病とたたかう子どもと家族の手助けを — あすなるの家

日本化薬グループは、「難病とたたかう子どもと家族の手助けを」を合言葉に、創立80周年記念事業の一環として埼玉県さいたま市に介護者用滞在施設「あすなるの家」を1998年12月に開設し、運営しています。「あすなるの家」は、小児がんをはじめとする難病の治療や骨髄移植を受けるため専門の医療機関に入院・通院している子どもと付き添われる介護者の方に安心して滞在していただける施設です。2010年度は178家族の方にご利用いただきました。

この施設では、滞在に必要な設備を備え、利用者のプライバシーを守るとともに、闘病生活を送る子どもを持つ親同士が交流を図ることができるよう共同キッチン、食堂、談話コーナーや子どもたちのプレイルームなどを設け、介護者の方の精神的負担を軽減する手助けとなるよう工夫しています。

日本化薬グループは、事業活動だけでなく、このような活動を通じて今後も社会に貢献できる企業グループとして役割を果たしていきたいと考えています。



◀ 玄関はオートロックになっており、滞在者は休日・夜間いつでも自由に入出できます。



◀ 部屋は10室(洋室9室・和室1室)ご用意しております。バス・トイレ・エアコン・テレビなどの設備を各部屋に備えています。



◀ 16名が一度に食事できる食堂とプレイルームはご家族同士の交流の場としてもご利用いただけます。

「あすなるの家」連絡先：048-658-5861

# 社会に向けた取り組み

## 地域に開かれた厚狭工場体育館「さくらドーム」が完成 — 厚狭工場

2011年5月、山口県にある厚狭工場敷地内に新しい体育館が完成しました。この体育館は、地域の方々にスポーツを通じてコミュニケーションを図る場としてだけでなく、災害時の避難場所としても利用いただけます。

施設は過去の水害を教訓に床高となっています。また、車椅子を利用される方や高齢者の方にも利用いただけるよう、正門横に外来者入口とスロープを設け「山口県福祉のまちづくり条例」に適合した設計で、「セラミックメタルハイドランプ」\*1や「高効率トランス(トッピングランナー)」\*2を採用し、省エネルギーも実現しています。

体育館のセカンドネーム(愛称)「さくらドーム」は、工場内の全従業員からの公募によって決定しました。大正6年に当社製品として最初に製造した製品名「山桜」がその由来で、工場内に桜の木が多いのも理由のひとつです。また、桜が日本人の心のふるさととも言えることから命名しました。

\*1 セラミックメタルハイドランプ：従来の水銀灯に比べて、「高効率」「高演色」「長寿命」と優れた省エネルギー効果を発揮する次世代のエコロジーランプのこと。

\*2 高効率トランス(トッピングランナー)：従来の変圧器と比べ、損失を低減し高効率でCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減でき地球温暖化防止に貢献する環境に優しい変圧器のこと。



◀厚狭工場体育館「さくらドーム」



◀スロープを設け、車椅子を利用される方や高齢者にも配慮



◀地域の子どもたちにも利用されています

## 岩鼻小学校での一日講師 — 高崎工場

高崎工場は、地元・岩鼻町の伝統行事である子育て観音祭や盆踊大会などの行事に地域の一員として積極的に参加・参画しています。また、毎年5月第2日曜日には企業祭「ふれあい祭」を開催し、多くの地域住民の方々に楽しんでいただいているとともに、工場施設(体育館)は地元のバレーボール大会や卓球大会で開放するなど、地域とのつながりを大切にしています。

このようなつながりから、2010年6月25日に高崎市立岩鼻小学校から高崎工場の紹介を依頼されました。そこで、高崎工場管理担当者の齊藤育幸が、全校生徒約400名の全校集会において日本化薬の企業説明を行いました。

高崎工場の広さ、従業員数、製造製品などを三択クイズ形式で出題しながら紹介しました。生徒の皆さんは真剣に考え、また元気に答えてくれ、珍回答や大きな笑いもあり、たいへん有意義な説明会となりました。

近隣の小学校で企業説明をさせていただいたことは、より多くの方々に日本化薬について知っていただく

いへん良い機会でした。今後も地域の皆さんとの交流を深めていきます。



▲クイズ形式での工場紹介に、たくさんの生徒が手を挙げた